

命の問題なんか 発生しない

2014年11月7日 伊藤鹿児島県知事会見発言より

この川内原発再稼働容認の会見ではびっくりするような発言がバンバン出ていたのですが、ポイントをタイトルに引用した発言1つに絞り、そこへ至るまでの質疑部分を引用していきます。黄色枠は伊藤知事発言部分。緑色枠は私の補足説明部分です。

西日本新聞記者の質問「避難計画が不十分という指摘への見解は？」への答えの中で (参考資料①24:48)

要するに今回の制度設計というのに、100万年に1回の事故を想定するわけですよ。そしてその時は100テラベクレル。その同じ条件で同じような事故が川内に起こった時にどうなるかっていうのは、実は5.6テラベクレル。そうすると、炉心から5.5kmの所は毎時5マイクロシーベルトなんですよ。5マイクロシーベルトっていうのは、20でもって初めて避難ですから、動く必要が無い。家の中にいてもいいし、普通に生活しててもいいという、**そのレベルの放射能しか人に被害が起こらない。**5マイクロシーベルトっていうのは1週間ずっと浴び続けて、胃の透視の3分の1くらいの放射能ですね。実はそこまで追い込んだ制度設計をしているので、時間もあるし、**避難計画が実際にワークする、そういうケースもほとんどないだろうし、**まずそれが、多分、あと川内原子力発電所10年、まあその後もあるかもしれませんが、において考えると、大体それでカバーできるのかなと、内心思っています。

ここで伊藤知事が言う青字部分の根拠は次の2つです。

新規制基準 (参考資料②) :

「セシウム137の放出量が100テラベクレルを越えるような事故の発生頻度は100万年に1回程度を超えない程度に抑制されるべき」

九州電力の川内原発設置変更許可申請から (参考資料③)

「最も厳しい重大事故が発生した場合でも格納容器は破損せず、セシウム137の放出量は7日間で1基あたり5.6テラベクレルになることを評価」

これに関連して2014年11月12日の原子力規制委員会田中委員長定例会見で (参考資料④)

「想定外のことが起これば放出量も増えるのでは？」という質問に対して

田中委員長

想定外という言葉は余り評判よくないのだけれども、だから、**全くそういう事態が起こらないということは私も申し上げていない**のです。ただ、確率的に見た場合には、かなり低くなるだろうということで、現実的な発言として、伊藤知事はそうおっしゃったのではないかと思います。

(参考資料)

- ①Youtube FNNsline (全録)川内原発再稼働 鹿児島・伊藤知事が記者会見 (カッコ内は動画内の時間)
<http://www.youtube.com/watch?v=NgCEZs4dvQA>
- ②商業用原子力発電炉に係る新規制基準 (平成25年7月決定)
http://www.rist.or.jp/atomica/data/dat_detail.php?Title_Key=11-02-01-03
- ③九州電力データブック2014別冊
http://www.kyuden.co.jp/company_data_book.html
- ④原子力規制委員会委員長定例会見速記録 2014年11月12日
<http://www.nsr.go.jp/kaiken/>

私どもが分かっていたかかったのは、100名以上の方が1年以上かけて、規制委員会という我が国の産業技術について最高の方々が、1年以上をかけた、その項目について、どれだけ努力をしたかという、その努力の成果みたいなもの、**努力をやったということ**を皆さん方に分かっていたかだけで十分なのかなと思ってたんです。

(中略)

あれだけの**真面目な方々が1年以上かけて、あれだけの作業をやった**というのは、やはり、我が国にこれまでありませんでしたし、それは**それなりの、私は成果があるんだろうと思う**んですよね。そしてその成果が、先ほど言った、もし薩摩川内で福島と同じようなことが起こったときに、どれくらいの、**5.6テラベクレル、5マイクロシーベルト**、先ほど言ったような、そこまで追い込んでもらったかというの、私は規制委員会に感謝したいと思いますし、**そういうような努力の跡を**です、皆さん方に分かっていたかかった。

国民の命を守れ。いかにも、原発を稼働すると国民の命を守れないような、そういうプロパガンダが大いにおこなわれています。ただ、私は、**規制委員会という、あれだけ素晴らしい方々が集まった組織**、やはりあの組織も自分の任務に極めて忠実で、相当時間をかけてですね、**原発の再稼働について、その安全を徹底的に追求したと思う**んです。**その数字の結論**が先ほど言った数字です。もし福島みたいなことが起こっても、**放出量は5.6テラベクレル、そして5.5kmの所では5マイクロシーベルト**。

もう命の問題なんか発生しないんですよね。

私はそちらの方を信じます。あれほどのことをやって、その結果として。またサイトを見ましても大容量の発電容量をもった電源自動車とか、素晴らしいものが、素晴らしいといいますが、すごく膨大なものが、今、置き場に置いてありますが、よくぞここまでのことをやったのかな、というのがありまして、そういう意味で、一概に国民の生命を守るとか守らないとかというのにはあまり汲みさないんです。

それよりも全体を見たときにどういう判断をすべきか、この原発の問題はシングルイシューではありません。原発だけの稼働の問題ではなくて、ある意味で言えば、我が国全体をどういう形で運営していくのか、というテーマでもあります。それは県にとっても同じ話であります。国の方に振り向けているようなことを言っていますが、国と県とそれから事業者が一体となって動く以外にない。ただ、もし万が一のことがあったら、福島はそういう形になっていますが、やはり国は元々エネルギー政策の基本的な責任を負う役所でありますので、最終的な責任はやっぱり国にあるのかな、というのが私の受け止め方であります。

感想をほんの少しだけ。

要するに、頭のいい人達が「頑張って」出してきた数字を見れば、「命の問題なんか発生しない」んだから再稼働して何が悪い？ってことでしょうか。

規制委員会は規制基準に適合しているかどうかを”審査”しているだけであり、その規制基準は福島第一原発事故原因が分からないままに作られたものでしょ。。。とツッコミをいれつつそもそも、根本的な所で論点がずれている気がしてなりません。

伊藤知事の発言からすっぱり落ちているのは未来への視点だと思います。せいぜい自分が元気な10年か20年後までしか見えていない。100年後、1000年後、手に負えないゴミだけが残っているということは想像できないのでしょうか？

ずっと未来の教科書に(もう地球上に人類はいないかもしれませんが。)今の時代がどのように書かれるのか？1000年前の遺跡を掘ったら放射性廃棄物が出てきた、なんてことが起こった時、その遺跡を作った1000年前の生命に対してどんな感情を抱くのでしょうか？